



入試分析

～入試ではこう出る!!～

【出題内容】

全25問 1問5点 (1・2)(漢字の読み取り・書き取り)は各2点、4・5(作文)は10点

1・2の漢字問題は易化。「浸る」の読み取り、「的の中心をイる」の書き取りができれば全問正解であろう。

3・4の文章問題は例年並み。3は昨年3月出版のライトノベル作家の作品で、読みやすい印象の文章。4は生物学者福岡伸一の著書『動的平衡3』で、読者の理解を促す文章でこちらもわかりやすい。200字の作文問題は「理想の組織」づくりがテーマで、部活動や班活動などの体験を例に挙げ、文章内容に合うようにしっかり説明できれば、高得点が取れる。また、5の評論文の問題では松尾芭蕉、千利休らを取り上げ、豊かな知識に裏打ちされた芸術の深化について語られている。4では画家のフェルメールも登場するが、国語だけでなく、社会で学んだ歴史的な背景、音楽や美術で学んだ文化的な教養も成功につながるカギとなる。中学校で勉強することすべてを無駄にしないという日頃の心がけこそ大切だ。

〈8年間の小説問題の出典〉

- | | |
|--------------------------------|--------------------------|
| 【2020年】 瀬那和章『わたしたち、何者にもなれなかった』 | 【2019年】 三浦哲郎『燈火』 |
| 【2018年】 澤西祐典『辞書に描かれたもの』 | 【2017年】 あさのあつこ『一年四組の窓から』 |
| 【2016年】 伊集院静『どんまい』 | 【2015年】 原田マハ『斉唱』 |
| 【2014年】 長野まゆみ『夏帽子』 | 【2013年】 稲葉真弓『唇に小さな春を』 |
| 【2012年】 松樹剛史『熟してはじける果実のように』 | 【2011年】 小川洋子『ガイド』 |

★有名作家の短編からの出題が多い。短編集はもちろん、筆者の心情を綴ったエッセイ集も手軽に経験を増やせる。

〈10年間の作文問題の主題〉

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 【2020年】 「理想の組織」 | 【2019年】 「新しい『何か』に出会うこと」 |
| 【2018年】 「自分の意志を持つこと」 | 【2017年】 「食生活と歴史」 |
| 【2016年】 「基本を身につけること」 | 【2015年】 「取り合わせの美」 |
| 【2014年】 「環境の持続可能性」 | 【2013年】 「住居と人間」 |
| 【2012年】 『『自分の言葉』で表現する』 | 【2011年】 「森林の価値」 |

★普段から自分の体験や見聞を広げ、またそれを書き留めておくことよ。 (おすすめは、日記にすること。効果があります。)

実際の問題にチャレンジ!

1 次の各文の——を付けた漢字の読みがなを書け。

- (1) 展望台から大海原を眺める。
- (2) 学校の図書館で借りた本を返却する。
- (3) 柔道の大会に出場するために鍛錬を重ねる。
- (4) 小学校の思節に心を込めて丁寧な札状を書く。
- (5) 鑑賞教室終了後、オーケストラの美しい演奏の余韻に浸る。

2 次の各文の——を付けたかたかなの部分に当たる漢字を楷書で書け。

- (1) 矢を放って的中心をイる。
- (2) 豊かな自然に開かれてくらす。
- (3) 湖に白鳥のムレが舞い降りる。
- (4) 新鮮な魚を漁港から市場までユソウする。
- (5) 人物画のハイケイに描かれた空の青さに心を奪われる。

5

旅の事、ある俳書に、「師の曰く、連歌に旅の句三句つづき、二句にてするよし、多く許すは神祇・釈教・恋・無常の句、旅にて離るる所多し。今、旅・恋離所にして、また一節この所にあり。旅体の句は、たとひ田舎にてするとも、心を都にして、遠取をさへえ、流の川舟にのる心持、都の便求むる心など本意とすべし、とは連歌の教なり」とあり。
また、「東海道の一筋もしらぬ人、風雅におぼつかなし、ともいへり」とあり。

(新編 日本古典文学全集) による

旅の(句)のことについてはある俳書に、西蕉先生の言われるには、「選歌では旅の句は三句続きであるが、俳書では二句(続き)でするがよい。多く(続けるのを)許すのは神祇・釈教・恋・無常の句(であつて、その種の句は、次の付句が、旅の句)で転換する場合が多い。当世では、旅と恋との句は(付け方が)むつかしく、それだけに)又ひとことのおもしろさ(この(旅と恋との句)の個所)にある。旅の様子(の句)は、たとひ田舎で(連歌)を作るときでも、心を都に置いて、遠取の問を越えたと、流の川舟に乗っている気持とか、都へよき言づてを頼む気持などを本意にするのがよい」とは連歌の教である」とある。又、「東海道の二つを旅したことのないような人は、俳諧の方でも頼りない」とある。

(問4) 「東海道の一筋もしらぬ人、風雅に()」とあるが、()の現代語訳において「風雅に()」に相当する部分はどこか。次のうちから最も適切なものを選び、記号で答えよ。

- ア 転換する場合が多い
イ 本意にするのがよい
ウ 旅したことのない
エ 俳諧の方でも頼りない
- (問5) Bの中の——を付けたア・エのうち、現代版名遣いを書いた場合と異なる書き表し方を含んでいるものを一つ選び、記号で答えよ。